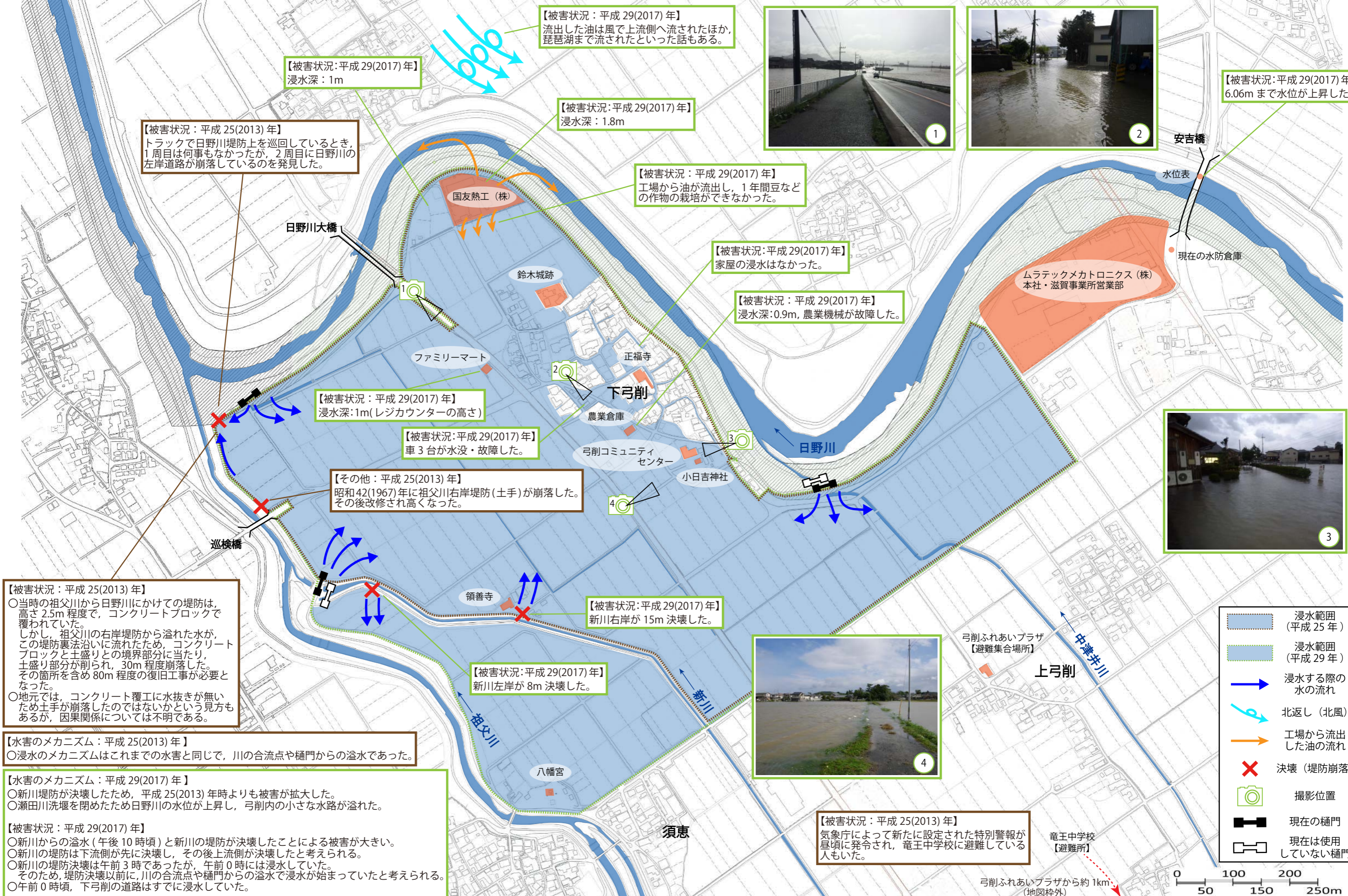


# 蒲生郡竜王町弓削水害履歴マップ③ 平成 25(2013) 年 9 月・台風 18 号 / 平成 29(2017) 年 10 月・台風 21 号

平成 30 (2018) 年 10 月 15 日 弓削コミュニティセンターで行った聞き取り調査に基づき作成

作成 関西大学 景観研究室 (蒲生郡竜王町都市計画地図上に作成)



【被害状況：平成 25(2013) 年】  
トラックで日野川堤防上を巡回しているとき、1 周目は何事もなかったが、2 周目に日野川の左岸道路が崩落しているのを発見した。

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
浸水深：1m

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
流出した油は風で上流側へ流されたほか、琵琶湖まで流されたといった話もある。

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
浸水深：1.8m

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
工場から油が流出し、1 年間豆などの作物の栽培ができなかった。

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
家屋の浸水はなかった。

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
浸水深：0.9m、農業機械が故障した。

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
6.06m まで水位が上昇した。

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
浸水深：1m(レジカウターの高さ)

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
車 3 台が水没・故障した。

【その他：平成 25(2013) 年】  
昭和 42(1967) 年に祖父川右岸堤防(土手)が崩落した。その後改修され高くなった。

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
新川右岸が 15m 決壊した。

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
新川左岸が 8m 決壊した。

【被害状況：平成 25(2013) 年】  
○当時の祖父川から日野川にかけての堤防は、高さ 2.5m 程度で、コンクリートブロックで覆われていた。  
○しかし、祖父川の右岸堤防から溢れた水が、この堤防裏法沿いに流れたため、コンクリートブロックと土盛りとの境界部分に当たり、土盛り部分が削られ、30m 程度崩落した。その箇所を含め 80m 程度の復旧工事が必要となった。  
○地元では、コンクリート覆工に水抜きが無いため土手が崩落したのではないかと見方もあるが、因果関係については不明である。

【水害のメカニズム：平成 25(2013) 年】  
○浸水のメカニズムはこれまでの水害と同じで、川の合流点や樋門からの溢水であった。

【水害のメカニズム：平成 29(2017) 年】  
○新川堤防が決壊したため、平成 25(2013) 年時よりも被害が拡大した。  
○瀬田川洗堰を閉めたため日野川の水位が上昇し、弓削内の小さな水路が溢れた。

【被害状況：平成 29(2017) 年】  
○新川からの溢水(午後 10 時頃)と新川の堤防が決壊したことによる被害が大きい。  
○新川の堤防は下流側が先に決壊し、その後上流側が決壊したと考えられる。  
○新川の堤防決壊は午前 3 時であったが、午前 0 時には浸水していた。  
○そのため、堤防決壊以前に、川の合流点や樋門からの溢水で浸水が始まっていたと考えられる。  
○午前 0 時頃、下弓削の道路はすでに浸水していた。

【被害状況：平成 25(2013) 年】  
気象庁によって新たに設定された特別警報が昼頃に発令され、竜王中学校に避難している人もいた。

- 浸水範囲 (平成 25 年)
- 浸水範囲 (平成 29 年)
- 浸水する際の水の流れ
- 北返し(北風)
- 工場から流出した油の流れ
- × 決壊(堤防崩落)
- 撮影位置
- 現在の樋門
- 現在は使用していない樋門

弓削ふれあいプラザから約 1km (地図枠外)

